



有限会社エコ・ライス新潟
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
TEL:0258-66-0070 FAX:0258-66-0447

クイーン倶楽部だより 11月号

《雨続きで稲刈りの日程が二転三転し、結局平日に決行し、残念ながら中学生は不参加。高専専攻生(大学生)と社会人のみの、少し寂しい中学生科学クラブとなりました。》

《「こしのめんじまん」は、一反で籾を千三百リットル収穫。乾燥調整をして、約九百リットルの玄米になります。今年栽培した高アミロース米三品種の中で一番収量がありました。》



写真左) 稲刈りには「こしのめんじまん」の開発者：新潟県農業総合研究所、石崎和彦博士も参加。評価は上々。
写真右) 収穫前でも稲の葉がしならず立っています。

高アミロース米稲刈り 米粉が日本の食料自給率をアップする?!

高アミロース米「こしのめんじまん」の稲刈りをしました。当日は雨があがったばかりで田んぼのコンディションはよくありませんでしたが、1時間弱程で終了。高アミロース米は米粉にして、「麺」「天ぷら粉」「ピザ生地」など小麦粉の代用品として期待が高まっています。稲刈りは、長岡高専、株ブルボンと当社で「新形質米利用研究会」を結成して研究をしています。

米粉利用が進めば国内米で様々な食品に利用ができ、食料自給率も上がり、トレーサビリティもできる安全・安心の輪が広がるでしょう!



Dr中村のお米の話



中村 信也(なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療栄養研究の第一人者として活躍中。

第23回 新嘗祭は農民の日だ

11月23日はかつて「新嘗祭」でした。天皇が新米を神に供え、自分も食する儀を行う日でした。それが、現在では「勤労感謝の日」です。何をやる日かよく分からないので、広辞苑を引いてみますと「勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝し合うとする日」とあります。今まで「勤労を尊びあう会」にも「生産を祝う会」にも出席したことがあります。

新嘗祭は続日本紀の769年のところに記載されている由緒ある儀式です。それを勤労感謝という当たり障りのない語に置き換えるというのは文化の破壊以外何者でもありません。とか言って今さら元に戻せと愚痴つてみても仕方ないので、現状のままでの有効利用を考えてみました。そこで、浮かんできたのが、新米を作り出す人に勤労感謝するという「農民感謝デー」です。この日は農民の皆様に「農民よ、今年も新米をありがとう」と裕次郎調に国民が全農民に感謝の意を表します。

農民は国の基本で、農民は国の宝、田んぼは国のまほろば、です。専業の農家は随分減ったけど、多くの人が農業に関係しています。事故米に見るように沢山の仲介人が積極的に米の販売に携わっています。米に関係する方は準農民で、本農民と共に国民から感謝される権利を有します。別に非農民からおごってもらえるのではないですが、感謝の言葉と態度はいただけるわけです。

この日は全国的に農民による、農民の、農民のための大会が行われるべきでしょう。かぼちゃ大きさ比べ、芋糖度比べ、肥桶担ぎ競技、おにぎり食べ比べなどがこの日に行われるようにしましょう。

昔、4Hクラブと会って、田んぼで若い衆が手押し耕運機で耕地大会をしていたのを思い出します。それが、原点であるべきです。



10/26(日)放送 関口宏のサンデーモーニング
「妊婦病院たらい回し」事件について取材を受ける中村先生

4Hクラブ：よりよい農村、農業を創るために活動しているアメリカの組織